

事例18

椎茸を育てよう！食べるだけじゃない、キノコの不思議

内容	椎茸の菌打ち作業、自然界におけるキノコの役割についての解説
ねらい	身近な食物である椎茸栽培を通して、椎茸の生物としての成長や自然界における役割に関心を向けるとともに、人と自然との関わりに気づく。 また、地域によっては自然の恵みを活かした地域産業、森林文化を知る機会となる。
学習効果	自然との関わりへの気づき、協力し合う心、自然や人への感謝の気持ち、探究心などの育み、キノコという生物への理解の促進
関連教科	理科、社会、総合的な学習
対象学年	小学校4年生
対象人数	1クラス(40人程度まで)、6人程度の班活動
場所	学校の屋外
時期	12月下旬～3月上旬頃
進め方	<ol style="list-style-type: none"> キノコについてのクイズを行い、基本的な生態を学習する。 キノコの森林生態系における役割を紙芝居で紹介する。 椎茸の菌打ち体験について、作業の方法を説明したあと、グループ毎に作業を進める。 <ul style="list-style-type: none"> 穴を空ける場所にチョークで印をつける。 ドリルで穴を空ける。 コマ菌を空けた穴に木槌で打ち込む。 できたほど木を運び、半日陰の場所に組み上げて伏せる。 今後の育て方や注意点を説明する。 児童から質問や感想を聞く。

<p>ポイント</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・何年か栽培したほだ木と、菌打ちをこれから行うほだ木をもって、重さを比較する。なぜ数年で重さが変化したのか考え、発表する。 ・キノコが分解者として自然界で果たしている役割について解説する。 ・食材としての身近さや、特徴を解説する。 (消費することで地場産業応援につながる。) ・ドリルや木槌など、道具の使い方や注意点など安全教育を徹底する。 ・班で協力して作業する。 作業中、ドリルを使用している間は1台に1人大人をつける。 ・一年半後に収穫ができることや、それまでの手入れの方法を説明し、期待をもたせるような解説を加える。
<p>道具・材料</p>	<p>児童持ち物:軍手 準備物:ドリル、ドリルの刃、木槌、コマ菌を入れる箱、 チョーク→班で1つずつ 材料:ほだ木(直径10センチ程度×長さ90センチ程度)(人数÷2程度)、 コマ菌(ほだ木×20～30コマ)、寒冷紗(生育上、必要であれば)、 木の杭(ほだ木を立てる場所を作る場合、授業以外で設置)</p>
<p>所要時間</p>	<p>2時限</p>
<p>経費</p>	<p>材料費:ほだ木1本約315円、コマ菌500コマ約1800円 講師料:5000円/1回×1人～3人※児童数によって変わります。 交通費:30円/キロ</p>
<p>森のせんせい 氏名・団体名</p>	<p>NPO法人大杉谷自然学校 池田直代</p>
<p>住所</p>	<p>多気郡大台町久豆199</p>
<p>連絡先</p>	<p>TEL 0598-78-8888</p>

